光一中だより

教育目標

〇自主的に学び、考え、実行する人

〇心豊かで、ともに助け合う人

〇健康で、勤労を愛する人

練馬区立光が丘第一中学校

校　長　　豊田　貴志

令和８年度　第７号

令和８年１１月５日

「日常（ひび）がつくる学校のかたち」

校　長　豊　田　貴　志

10月30日（金）、練馬文化センターにおいて、本校としては初めてホールを使った文化発表会が開催されました。水曜日の体育館で行ったリハーサルでの反省を上手に活かしながら、すべてのクラスが素晴らしいハーモニーを聞かせてくれました。とりわけ３年生の発表は、最後の行事にかける思いが感じられるもので、心を揺さぶられる合唱でした。１・２年生にとっての道しるべとなってくれたと感じています。仲間とともに一つの目標に向かって取り組む姿が見られ、クラスのつながりを深める機会となったことでしょう。

さて、11月は東京都教育委員会が定める「ふれあい月間」です。いじめの未然防止や早期発見に取り組むとともに、よりよい人間関係や学校生活について考える大切な機会となります。光一中には、異なる個性や考え方をもつ多くの生徒が集まっています。にぎやかな時間を好む人もいれば、静かに過ごすことを好む人もいます。自分を表現することが得意な人もいれば、苦手な人もいます。そのような様々な人が、ともに生活する場所が学校です。では、『誰もが安心して過ごせる学校』とは、どのような学校なのでしょうか。

例えば、授業中に間違った答えを言っても笑われない。失敗しても必要以上に責められない。困ったときには誰かに助けを求めることができる。こうしたことが当たり前になっていれば、皆さんは失敗を恐れず、さまざまなことに挑戦できるのではないでしょうか（これこそ凡事徹底）。反対に、誰かの失敗を面白がったり、特定の人をからかったりすることが日常的になっていると、周囲の人も不安を感じるようになります。自分が直接その対象になっていなくても、安心して過ごすことはとても難しくなります。

学校の雰囲気は、そこにいる人たちの日々の行動によって、少しずつ形づくられていくものです。誰かの挑戦を応援すること、失敗した人を励ますこと、困っている人に手を差し伸べること。こうした小さな行動の積み重ねが、学級や学校全体の温かさにつながります。いじめは、どのような理由があっても許されるものではありません。そして、いじめを防ぐためには、周囲の人たちの行動も大切です。誰かが傷つけられている場面を面白がらないこと。おかしいと感じたことを見過ごさないこと。必要なときには先生や周囲の大人に知らせること。そうした行動が、誰かを守ることにつながります（まさに心を形に）。

光一中では、「学校生活のユニバーサルデザイン化」をテーマとして、すべての生徒が安心して学び、自分の力を発揮できる学校づくりを進めています。生徒の皆さんにも、ふれあい月間を機会に、自分たちの学級や学校の雰囲気について考えてほしいと思います。合唱の余韻が残る今、誰もが過ごしやすい素敵な『日常（ひび）』をつくっていきましょう。